

## B型肝炎・C型肝炎

伊藤内科小児科クリニック 伊藤眞一

今年度から、成人健診と一緒に B 型肝炎ウイルス (HBV) と C 型肝炎ウイルス (HCV) の検査が行われます。40 歳から 70 歳までの 5 歳刻みの人 (40・45・50・・・歳)、過去に肝機能障害を指摘された人、輸血あるいは血液製剤 (フィブリノゲン・フィブリン糊など) の投与を受けたことのある人、大きな手術を受けたことのある人などで希望者が対象となります。今年の成人健診で肝機能検査の GPT 値がある基準値を超えた人も対象になります。

肝炎の症状は、急性肝炎では発熱、全身倦怠感、食思不振で始まり、黄だんが見られます。症状のはっきりしない場合もあります。慢性肝炎とは、症状の有無でなく肝機能の異常が 6 ヶ月以上続く場合です。肝炎の多くはウイルス性で、なかでも HBV・HCV が重要です。

HBV による肝炎 (B 型肝炎) では、小児期以降に発症した急性肝炎の場合慢性化することはほとんどありません。時に劇症肝炎になることがあります。この急性肝炎の場合性行為により感染・発症することがあります。また、新生児期の母子間感染が強く問題になります。このときに感染すると成人になって肝炎を発症し、時に慢性化します。

HCV による肝炎 (C 型肝炎) は、主に血液を介して感染します。急性肝炎から半数以上の人慢性肝炎になるといわれています。さらに、肝硬変症・肝癌になることが知られています。アルコールの摂取はいけません。かつての輸血や血液製剤が問題になっています。また、刺青、覚せい剤などでの針の使いまわし、ピアスなどでも感染します。家庭内では、かみそりや歯ブラシの共用はいけません。

このように C 型肝炎では、死に至る肝硬変症・肝癌を引き起こすことがありよりいっそうの問題となります。近年、インターフェロン (IFN) 療法が確立され HCV を排除できるようになり、治りうる慢性肝炎となってきました。そこで、まず診断、HCV 検査が大切になってきました。対象となるひとは、この機会をご利用ください。INF 治療もより進歩し有効率が向上しており、再投与もできます。どのような場合・結果でも、主治医とよく相談してください。また、日本医師会のホームページ <http://www.med.or.jp/kansen/cqa.html> もご参考にしてください。

---